



STOP! 介護崩壊 介護ウェブ2010 推進ニュース

— 介護ウェブの "Big Wave" をおこそう! —

新方針を具体化し、参院選で介護問題を国民的な争点に押し上げ、制度の抜本改善を必ず実現させよう

「アキラメナイ・アキラメサセナイ医療・介護・社会保障制度」の実現を！ 「医療・介護を苦しめる政策を改善を求める宣伝・署名行動」(長野・中信地域連絡会)

皆様、お仕事お疲れ様です！雨が降ったりで、ジメジメした天候が続いている今日この頃、いかがお過ごしでしょうか？いよいよ参院選挙も大詰めになってきていますが、またもや「消費税 10%」と言っています。皆さん、消費税 3%導入の時の思い出してください。「医療・福祉のために」と言い導入されましたがどうでしょう？介護報酬で言えば、4.7%下げられました。医療・福祉には使われていないのではないかと感じます。また、高期高齢者医療制度といった、差別的制度も導入されました。

医療・介護を苦しめる政策を改善させようと、6月29日18:00～19:00 中信連絡会の職員が職種の枠を超え、松本駅前に40人が集合し署名行動・訴えを行いました。当日、雨が降ったりやんだり心配でしたが、見事！天候も味方に付け涼しげななか行いました。私達が準備をしていると、〇〇候補者の車が止まり、演説が始まってしまいました。すると、介護の親方(職員)が歩み寄り、「6時から予約してある」と一言、演説は終了し、「失礼しました」と去って行きました。そんな勢いに続きそれぞれが考えた訴えが声高らかにスタート！各々の、日頃の思いを込め、マイクデビューを飾った職員の方の、スーツと耳に入ってくる演説の声、上手さに皆ビックリ！！街行く方に署名をお願いする一人ひとりも勇気付けられ、自然と署名をお願いする足が動きました。署名をお願いしながら、介護保険の話をする、「そんなことになっていたなんて知らなかった。先が無いわね」と言われる方、「本当に年寄りをバカにしている」と怒りの声が聞かれました。中には、「国が決めた事だかしょうがない、いつかはよくなる」との声もありましたが、このまま黙っていても何も変わりません。



これから、日頃の仕事の中で目・耳にする患者さん、利用者さんの実態から、その代弁者となり街角に立ち訴え署名行動を続けます。今回、日程が合わず参加できなかった方、今回参加された方、「アキラメナイ・アキラメサセナイ医療・介護・社会保障制度」の実現に皆で行動して行きましょう。今後の行動にも多くのご参加をお願いします。今回の署名集約は、後期高齢者医療制度15筆、介護保険改善40筆でした！市民タイムスで紹介されました。(民医連中信地域連絡会 介護ウェブ推進ニュース 2010年7月6日より)

市民タイムス 平成22年(2010年)7月2日(金)(4)

介護保険制度の改善求め署名活動 民医連連盟の5施設 松本地域の福祉施設や松本市のJR松本駅前などで、介護保険制度の改善を求める署名活動を行った。介護現場の厳しい現状を訴えながら、通行人らに協力を呼びかけた。安曇野市豊科高家の協立福祉会、全日本民主体験機関連合会(民医連)に加え、5施設約30人が参加した。署名は来・参院選議員あてで、保険料の利用者負担の軽減や、職場労働者の賃金・労働条件の改善など4項目について請願する内容を盛り込んだ。街頭活動では、施行3年目を迎えた後期高齢者受給者についても保険料の単上げを押し、高齢者に医療給付をもたらす差別的な制度など廃止を訴えた。

3年前から半生に亘る署名活動を実施している。介護福祉士協立福祉の手塚健太郎さんは「現状制度では経済的に苦しい人が必要な介護を受けられない状況になっている」と話していた。(橋内里美)

通行人らに署名への協力を求めた

粘りづよい働きかけで、小規模施設でも参政権を認めさせ、初の不在者投票！ 「投票できてほっとした」という声をきいて1票の重みの大切さを感じた(石川)

石川県に対し、昨年からの粘りづよい働きかけを続け、今年5月14日に、「50人未満の小規模の特養でも基準を緩和して不在者投票をさせてほしい」と要望し、5月19日の石川県選挙管理委員会で協議された結果、「50人の要件を20人以上に基準を緩和」することが決まりました。

基準の緩和後、7月8日に、特養なんぶやすらぎホームで初めての不在者投票を実施しました。当日の朝、入居者から、「車で行くんやね？」と心配そうに聞かれ、「ここ（なんぶ）でできるよ」と答えると、「ここでできるなら、それは嬉しい」と大喜び。今年3月の石川県知事選挙では、10名の入居者が投票所に出向き投票をしましたが、今回は、住み慣れた特養で投票ができることとなり、倍近い17名が投票できました。これも、いつもの生活の場所で投票ができるようになったからです。

多くの入居者は、「投票場所の会議室まで行くだけでいいんなら楽やわ」「ここでできるのは嬉しい」と、2時間も前から投票所の会議室まで降りてきて待っておられた方もいらっしゃいました。

ずっと城北病院や金沢リハビリテーション病院を利用されていたKさんは、不在者投票の会議室に満面の笑みでやって来られ大満足。「Kさんの顔、本当に、にっこにこやったね」と職員が言うほどでした。

取材にきた毎日新聞の若い記者も、お年寄りにインタビューし、取材後、「投票できて肩の荷がおりた、投票できてほっとしたという声をきいて、1票の重みの大切さを感じた。今日取材をして、お年寄りの姿・声で感動した。私も選挙に行かないといけないうって教わった。ふだんの生活の場所で、顔なじみの中で、安心して投票できて良かったと、自分自身も思った」と、記者自身が感動して帰っていきました。

7月9日 毎日新聞(石川県版)

不在者投票所の基準緩和

小規模施設もOK

老人ホーム入所者ら安堵



老人ホームなどに設ける不在者投票所の指定基準が、今回の参院選(1日投票)から緩和され、小規模施設でも不在者投票が受けられる。また、車椅子生活でも社会的に孤立した高齢者の投票に、入所者らは安堵の表情を浮かべた。

不在者投票所が設置できる11市(金沢市、石川市、能登町、白川町、小松市、野々市町、白山市、小坂町、小松市、野々市町、白山市)の政界は、「これからは、投票の手が不自由な高齢者は、投票の基準として、40人も新入指定を受け、5月、従来の50人以上の施設の一つ、8日後の2人も含め、計17人が参加する」と満足した。

から、20人以上に緩和し、時が近づくと、1階の会議室に、事前にはどうもと車椅子特別養護老人ホームの小型の投票所ができた。不在者投票が進んでいることがあつた。県内ではこれで新たに10施設不在者投票所に指定された。

昨年からは選挙権を有する要請してきた特別養護老人ホーム「なんぶやすらぎ」

記入台では入所者一人に補助職員がつかうが、選挙公報を配り、選挙区は候補者を記す。1比例はどの政党にしようか」と説明。手が不自由な場合は職員が代筆し、自筆で投票したも含め、計17人が参加した。

緩和前の3月の知事選挙で投票に行けなかった入所者は10人だった。坂口朋美施設長(48)は、多くの人が投票できてよかったと安心した様子。新聞やテレビを見て投票先を考えた坂口君江さん(84)は、肩の荷が降りた」と満足した。

2010参院選

職員に手伝ってもらいながら、投票箱に票を投じる入所者。金沢市弥生3のなんぶやすらぎホームで

2010年7月7日の毎日新聞(全国版)、2010年7月9日の毎日新聞(石川県版)に記事が掲載されました。

(2010年7月9日 特別養護老人ホームなんぶやすらぎホーム 坂口朋美施設長より)

「不在者投票施設の指定基準」問題のポイント！！

総務省は2007年1月に「統一地方選挙の管理執行について」の通知を发出し、不在者投票施設の指定基準について「概(おおむ)ね50人以上の人員を収容できる施設としているが、都道府県の判断で指定できる」ことを明記しました。この通知を出した理由について「50人以上でないと認めないと杓子定規にとられると、1人でも多くの人が投票できるようにという制度の主旨を損ねてしまうため」としていました。この通知によって、当時、沖縄県では「50床以上」の制限を撤廃しています。

お問い合わせは、「介護ウェブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp